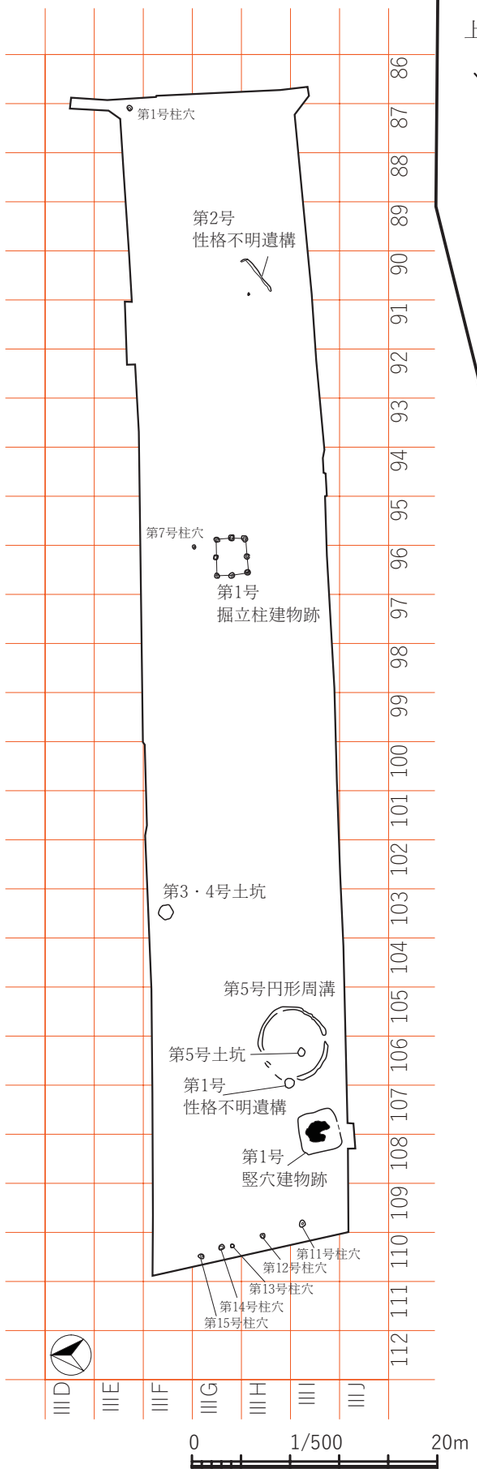
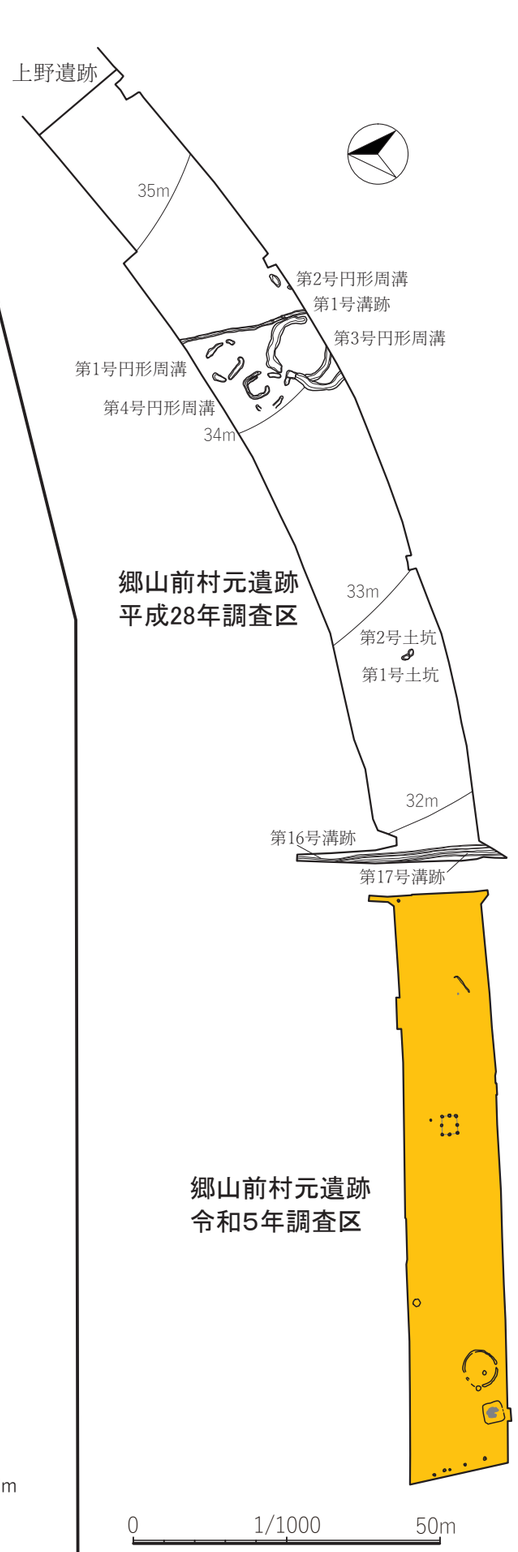


令和５年度調査区
遺構配置図（6月21日時点）



調査区位置図

発掘調査現地見学会　令和5年7月8日(土)

郷山前村元遺跡

当日配布資料

1回目:10:00～10:30　3回目:13:00～13:30
2回目:11:30～12:00　4回目:14:30～15:00

■郷山前村元遺跡の概要

青森県埋蔵文化財調査センターでは、常海橋銀線道路改築事業の実施に先立ち、青森市浪岡大字郷山前字村元の郷山前村元遺跡で、平成28年に続き２回目の発掘調査をしています。本事業では、上野遺跡・熊沢溜池遺跡・樽沢村元(３)遺跡の発掘調査も行っています。

郷山前村元遺跡は、青森市役所浪岡庁舎から西へ約３㎞、梵珠山南麓に広がる、標高30m前後の低位段丘上に位置します。調査区付近は西へ緩やかに下る斜面で、目の前に津軽平野と岩木山を望むことができます。これまでの発掘調査で縄文時代・平安時代・江戸時代の遺構や遺物を確認しました。

遺跡位置図
（青森県遺跡地図に加筆）
緑破線：常海橋銀線道路改築事業範囲

■郷山前村元遺跡で見つかった遺構と遺物

今年度の調査では、竪穴建物跡１棟、円形周溝１基、掘立柱建物跡１棟、土坑３基、性格不明遺構２基などが見つかりました。

竪穴建物跡

平安時代の竪穴建物跡を１棟確認しました。１辺約3.3m四方と小型で、床面には壁際に沿って溝が巡っています。柱穴やカマドは見つかりませんでした。946年頃に噴火した白頭山－苫小牧火山灰と考えられる火山灰の堆積から、噴火以前のものと考えられます。

第１号竪穴建物跡で確認した火山灰

第１号竪穴建物跡の壁溝

円形周溝

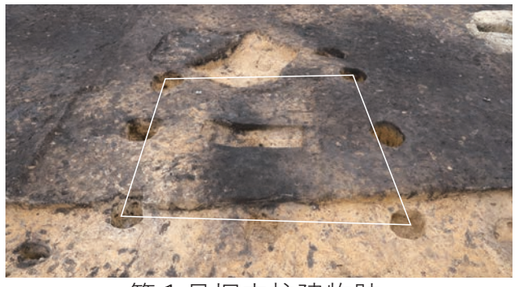
平安時代の円形周溝を１基確認しました。幅約40cm、深さ10cm前後の溝が直径約３ｍの円形に巡っています。上部は削平され、人骨や遺物は出土していませんが、これまでの事例から、溝の内側に土を盛り上げたお墓と考えられます。なお、西側に隣接する窪地から、底部へ焼成前に「大」と刻んだ土師器坏が、ほぼ完形で出土しました。

第５号円形周溝

円形周溝脇から出土した土師器坏
（右下に底面接写有）

掘立柱建物跡

８本の柱で建てられた、２間×２間の小規模な建物跡を１棟確認しました。柱の中心間隔は約1.1～1.5m、柱穴の掘方は直径40cm前後、深さ約20～50cmです。柱痕跡から直径15cmの丸柱と推定されます。柱穴から遺物は出土していませんが、周辺から出土した陶磁器から、江戸時代のものである可能性があります。



第１号掘立柱建物跡

柱穴　土層断面

土　坑

調査区北西側では、縄文時代のフラスコ状土坑と楕円形の土坑が重なっていました。形状から、写真左のフラスコ状土坑は貯蔵穴、写真右の楕円形の土坑はお墓の可能性があります。倒木により上部が壊されており、その中から縄文時代晩期前半のものとみられる台付土器が出土しました。

第３(左)・４(右)号土坑

第３・４号土坑　土層断面・遺物出土

遺　物

縄文時代・平安時代・江戸時代の遺物がダンボール箱で２箱出土しました。縄文土器は、縄文時代前期と晩期のものが見つかっています。調査区東側の倒木痕周辺からは、縄文時代前期中葉～末葉の円筒下層式土器が出土しました。遺構は見つかっていませんが、人々の活動があったと考えられます。一方、上記写真の晩期の土坑は調査区西側で確認しており、調査区内で土地の利用方法に差があったことを示しています。石器は、縄文時代の敲石や磨石、磨製石斧などの礫石器が数点出土しています。一方、石鏃などの剥片石器はこれまで１点も出土していません。平安時代の遺物は、土師器・須恵器の坏・甕などが出土しています。江戸時代の遺物は、碗などの陶磁器片が出土しています。

なお、平成28年度の調査では、平安時代の土坑から炭化種実塊が出土し、分析の結果キビ・アワ・イネ・アサ・ソバが確認されました。当時の食生活を知る上で貴重な資料となっています。

調査区東側　縄文土器出土

調査区東側　磨製石斧出土

調査区東側　縄文土器出土

土師器坏　底面刻書
（左上に出土状況写真有）